

報道関係各位

2012年10月19日
森ビル株式会社

「文化庁メディア芸術祭香港展 2012」の企画運営業務を受託 森美術館のキュレーションにより日本のメディア芸術をアジアへ発信

森ビル株式会社では、文化庁の主催により2012年12月8日～2013年1月6日に香港で開催される「文化庁メディア芸術祭香港展 2012」の企画運営業務を受託し、森美術館のキュレーションのもと、日本のメディア芸術をアジアへ発信いたします。

本展では、「PARADE 日本のメディア芸術における見えない存在 百鬼夜行絵巻からIS Paradeまで」と題し、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門から文化庁メディア芸術祭受賞作品を中心に、選りすぐった作品をアジアに紹介いたします。また、より深く日本の「メディア芸術」の現在を伝えるため、展示・上映にとどまらず、シンポジウム、パブリックプログラムなどを会期中に開催いたします。

※文化庁メディア芸術祭に関しては次頁を参照

文化庁メディア芸術祭香港展 2012

「PARADE 日本のメディア芸術における見えない存在 百鬼夜行絵巻からIS Paradeまで」

会期：2012年12月8日（土）～2013年1月6日（日）

開館時間：11：00～19：00

展示会場：ArtisTree(1/F, Cornwall House, TaiKoo Place, 979 King's Road, Island East, HK)

入場：無料

キュレーター：片岡真実（森美術館チーフ・キュレーター）

主催：文化庁

後援：在香港日本国総領事館、日本貿易振興機構 香港事務所、CREATE HONG KONG

協賛：Swire Properties Limited、Hong Kong Arts Centre、Shun Hing Group / Panasonic、無印良品

特別協力：Leisure and Cultural Services Department（香港特別行政区政府）、Hong Kong Film Archive

企画・運営：文化庁メディア芸術祭香港展 2012 事務局（森ビル株式会社、森美術館）

URL：<http://parade-jmaf.jp>

森ビルでは、これまで培ってきた街づくりや街の運営ノウハウ・ブランドを生かし、都市を軸とした新しいビジネスの創造、推進を行ってまいりました。「都市を創り、都市を育む」一環として、この度のジャパンコンテンツの発展を推進させることで、日本の国際競争力強化に貢献するとともに、都市に広がる無限の可能性に挑戦してまいります。
（参考）「森ビルの新たな都市ビジネス～ジャパンコンテンツの発展推進～」

【本件に関するお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室 深野

TEL：03-6406-6606

FAX：03-6406-9306

E-mail：koho@mori.co.jp

文化庁メディア芸術祭について

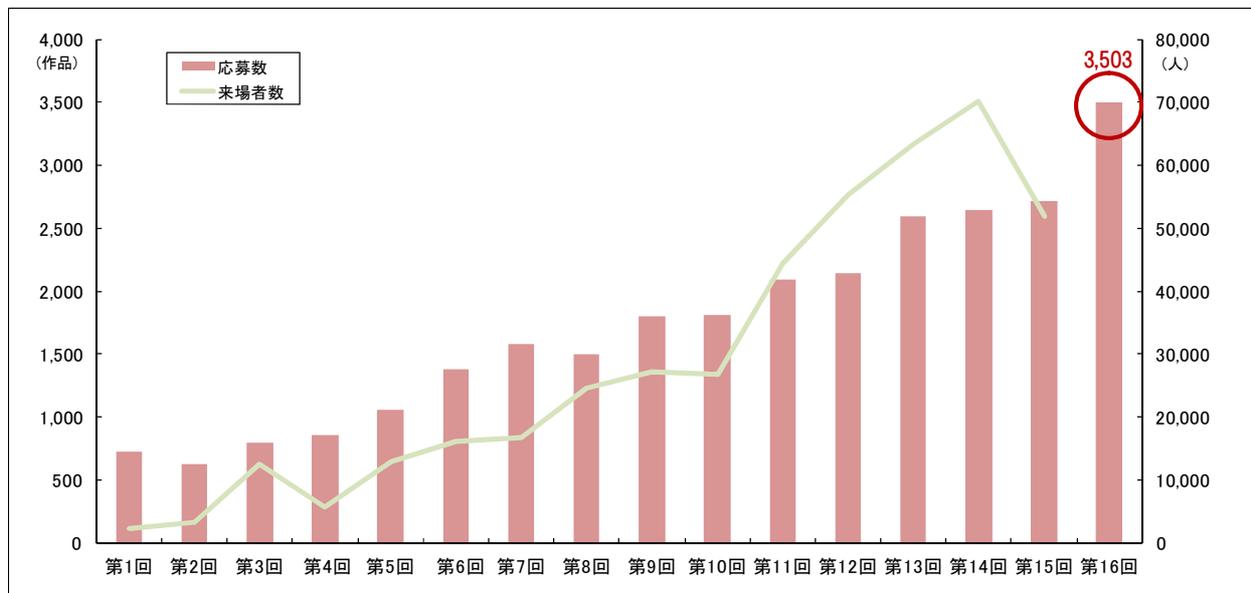
文化庁メディア芸術祭は、メディア芸術の創造とその発展を図ることを目的に、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。

1997年の開催以来、応募数は年々増加し、本年度（第16回）は過去最高となる世界71の国と地域から3,503作品の応募があるなど、国際的なフェスティバルへと成長を続けています。

この文化庁メディア芸術祭の受賞作品を中心に、日本のメディア芸術作品を海外へ広く紹介する海外展は、これまで北京（2002年）、上海（2007年）、シンガポール（2008年）、ウィーン（2009年）、イスタンブール（2010年）、ドルトムント（2011年）と世界各地で開催されてきました。今年度は、中国・香港にて「文化庁メディア芸術祭香港展 2012」を開催します。

メディア芸術祭来場者数と応募作品数の推移(第1回～第16回)

※第16回の受賞作品展は2013年2月開催予定



文化庁メディア芸術祭香港展 2012

「PARADE 日本のメディア芸術における見えない存在 百鬼夜行絵巻から IS Parade まで」

「PARADE」展では、現代アート、マンガ、アニメーション、ゲーム、ウェブ、アプリ作品など日本の現代アート、メディア芸術分野から、日本の自然観や見えない存在への意識が視覚化された作品を紹介します。タイトルの「PARADE」は、日本美術史上の代表的な妖怪絵巻である《百鬼夜行絵巻》(真珠庵本、伝 土佐光信 筆)全図(複製)の「行列(パレード)」と、twitter 上でキャラクターを作成する《IS Parade》の行列を繋ぐキーワードです。同時に、過去から現在に至るメディアやテクノロジーの変遷と、そこに通底する空間と時間の融合、連続性の概念、不可視の存在への意識などを探る旅の象徴でもあります。



PARADE 展ビジュアルイメージ (変更となる可能性があります)

出品作家 (予定/五十音順)

Antenna	(アート)	しりあがり寿	(マンガ)
植草 航	(アニメーション)	田口行弘	(アート)
大友克洋	(アニメーション)	田中秀幸	(エンターテインメント)
沖浦啓之	(アニメーション)	地岡公俊	(アニメーション)
奥村雄樹	(アート)	辻川幸一郎	(エンターテインメント)
押井 守	(アニメーション)	成瀬つばさ	(エンターテインメント)
Omodaka、ひらのりょう	(エンターテインメント)	橋本ダイスケ	(エンターテインメント)
金氏徹平	(アート)	林智彦/千房けん輔/小山智彦	(エンターテインメント)
川崎博嗣	(アニメーション)	原 恵一	(アニメーション)
菅野 創/山口崇洋	(アート)	細田 守	(アニメーション)
クワクボリョウタ	(アート)	宮崎 駿	(アニメーション)
さわひらき	(アート)	諸星大二郎	(マンガ)



photo: Jennifer Yin

<キュレーター: 片岡真実 (森美術館チーフ・キュレーター) プロフィール>

民間シンクタンクで文化政策・都市開発と芸術文化プロジェクトに関する調査研究を行った後、1997年から東京オペラシティアートギャラリーにてチーフ・キュレーター。2003年より森美術館。2007年から2年間、ヘイワード・ギャラリー (ロンドン) でインターナショナル・キュレーター兼務。2012年にはサンフランシスコ、アジア美術館でゲスト・キュレーション、第9回光州ビエンナーレの共同アーティスティック・ディレクター。